あむーる

島根県立松江北高等学校
第３学年　八幡英語通信
２０１６年１２月２０日発行
第２４号

No.24

北高は日本一の学校だった！

―『進路だより』第44巻より

素晴らしい進路状況の要因

校　長　鞍　嶋　弘　明

平成13年3月の進路状況がまとまりました。昨年に続き素晴らしいものでした。国公立大学合格者355名、私立大学合格者570名、短大等合格者71名でした。特に今年の特徴は、東京大学合格者12名をはじめとする旧帝大合格者約70名であった事です。国公立大学合格者355名は全国公立高校のトップでした。全国でトップになると言うのは大変難しい事です。人口60万人の大都市に一つだけある普通高校でできない事が、4校の普通高校が存在する人口15万人の小都市松江にある北高でできるという事は大変な事です。松江北高校の教職員に頭の下がる感謝の思いばかりであります。その要因をいくつか述べてみます。

（1）本校の授業を中心にした教育

このような進路状況を実現するためには、なんと言ってもその根底にしっかりとした学力がついてないとできません。本校は伝統的によほどの事がないかぎり授業をカットしません。また先生方の出張等でも振替により実施し、自習を認めません。いつでも授業を大切にします。今全国の高校では偏差値教育に対する反省から、楽しい学校作りを行おうと、授業が結果的にやや消極的になり、青春の真っ只中のなんでも吸収できる年代の生徒を伸ばし切ってない傾向があります。普通科のビジョンは高等教育に耐えうる基礎・基本をしっかり教える事で、偏差値教育と授業をきちんとやる事は違います。その点本校の授業を大切にする姿勢が、生徒を学習から逃げない精神力を養成し、宿題等を大切にする姿勢を作り、3年間で大きなものを蓄積し、このような進路状況になると思われます。

（2）判定会議による進路指導のち密さ

本校では6月、10月、12月、1月と年4回判定会議を実施します。メンバーは進路指導部、3年学年会、電算部の先生方が中心ですが、この効果も大きいと思います。この会には、ほとんどの教科の先生方が参加するため、今後どうやって学力を伸ばすか、その方向性を示し、全教員がこの方向性に従って一丸となって学力を強化します。と同時に一人の生徒の進路を適性、学力の面から多くの先生方で分析し指導します。担任と生徒だけの決定では良い面もありますが、欠点もあります。私も経験がありますが、担任が指導している教科が良くできると過大評価したり、担任と生徒だけでは距離が近すぎて過大評価したり、過少評価したり、判断を誤まる事もあります。その点多くの人の目で判断するとち密な判断が可能です。この判定会議により組織で動く事は学力強化にしても進路決定にしても効果は大きいと思います。

（3）生徒のたくましい精神力

文武両道を実践している本校では、生徒によっては3年11月まで部活動をやります。3年間、部活動をやりながら、短い勉強時間に集中して体力の限界に挑戦しながら、文武両道を実践していくうちに養成される、たくましい精神力が最後の追い込みになって爆発して行く感があります。部活動をしていない生徒もこれに刺激されます。本校の生徒が本来の高校生の生き方を実践している事がこのような進路状況を生むと思われます。

（4）家庭の暖かい支援

この3年間、生徒のストレス解消の場として、また、物心両面にわたり生徒に協力いただいた家庭の存在は大きな意味があると思います。文武両道に勤しむ生徒をいつも暖かく見守り、時にはきびしく指導される家庭の支援なしには生徒の成功はありません。現在教育界で「学校と家庭の連携を密に」と良く言われます。これは簡単な事ではありませんが本校の場合、それがうまくいっている事により生徒の進路実現があると思います。

その他成功の要因は多々あります。校長として先生方、生徒、家庭の頑張りにただ感謝をし、このような時に校長をさせていただいた事に幸せを感じています。大学に進学した生徒には赤山で培ったパワーを世のために爆発させ、良い人生を送って欲しい。また不幸にして自分の希望を実現できなかった生徒は、今補習科で後輩の範として日々努力しています。来年には笑顔がみれるよう指導する事を約束し、私のあいさつとします。

※平成２７年１２月２６日鞍嶋先生は東出雲町長職なかばにして急逝されました。

広島大学アジアで26位！

国際ニュース通信社のロイターがまとめた**「アジアで最もイノベーティブな大学ランキング」**で上位７５校が公表されました。日本からは２位の東京大学、４位の大阪大学をはじめ２０校がランクインしました。中国地方で最上位となった**広島大学**の**越智光夫学長**は「研究費や設備など限られた条件下で内外有力大学の一角にランクインしたことはうれしい」と喜びを語りました。ランキングは大学の所有する特許や学術論文の引用情報などを基に科学の進歩や発明、グローバル経済に貢献した教育機関を選定するものです。

最近も、**山下袖実『広島大学は世界トップ１００に入れるのか』（PHP新書）**という本が出て注目されているところでした。少子化や運営費交付金の削減により、国立大学にも生き残り戦略が求められる時代になっています。そんな中、文部科学省は、**「スーパーグローバル大学創成支援(タイプA)」**として、世界ランキングトップ100を目指す力のある大学13校に補助金を出す制度を開始。この13校のうちの一つに、広島大学も選出されました。実は広島大学は、論文被引用数で国内大学5位になるなど研究のレベルが高く、「平和科目」を必修とするという他大学にはない独自性も備えているんです。では世界トップ100に入り、さらに目標として定める「100年後も光り輝く大学」になるために必要なことは何か。ローカル国立大学の挑戦を綴った面白い本でした。図書館にも入れてありますので、広大希望の人はぜひ読んでおきましょう。

●アジアで最もイノベーティブな大学ランキング

順位	学校名	国名
１位	韓国科学技術院	韓国
２位	東京大学	日本
３位	ソウル大学校	韓国
４位	大阪大学	日本
５位	浦項工科大学校	韓国
６位	東北大学	日本
７位	京都大学	日本
８位	成均館大学校	韓国
９位	延世大学校	韓国
１０位	慶應義塾大学	日本
…	…	…
２６位	広島大学	日本
…	…	…
３８位	岡山大学	日本